

21581



點字獨習書

點字教授法
(點字教科書
練習板附屬)

全

明治
38 5 11
内交

緒言

抑點字は佛國の盲人ルーイブレイユ云る人の創作に係るものにして厚紙の表面に粟粒位の小點を凸隆せしめ指端を以て是を探り讀むものにして即ち盲人の用る文字なり吾國にては東京盲啞學校教諭石川倉治氏の考案せる假名五拾音の點字あり以て凡ての言語文章を寫し出すを得べし故に盲人は是を學んで書簡の往復帳簿の整理日誌の記録等凡て日用の便益を得るは勿論普通學より更に進んで高等の學科をも修得し以て智能を啓發し得べく心の眼を開きて生涯の幸福を享くる事蓋鮮少ならざるべし

此書は主として初學の人に解し易く習ひ易き様簡單に點字の讀み方書き方を説明したる者にして盲啞學校又は訓盲院に入學し能はざる盲人に自宅獨習の便を與んが爲に著したるもの

なり而して一名を點字教授法と名付け墨字を以て記述せり故に盲人は其父兄知己に乞ひて此書の代讀解説を求め熱心研究する處あらば所謂獨習の目的を達するは敢て困難の業に非らざるべし

著者は吾訓盲事業の現況に付て感ずる處あり微力聊か同胞盲人のため盡さんご欲するものなり盲人の父兄知己たる方幸に煩勞を辭するなく此書によりて懇切教導あらん事を切望して止まざるなり

此書に附屬する點字書は尋常小學第一一年級の教科書を翻案轉寫したるものなり墨字を以て其言文を傍書し以て教授者の便を計れり又た練習板なるもの有り最も簡易なる構造にして細長き木板に鋏頭を以て大形の點字を表はせり初學者殊に兒童は此練習板によりて先づ指端の練習を成すべし初めより紙面

の點字を探り讀むは其點位點數の判別に苦しむのみならず徒に點字の磨滅する虞あればなり

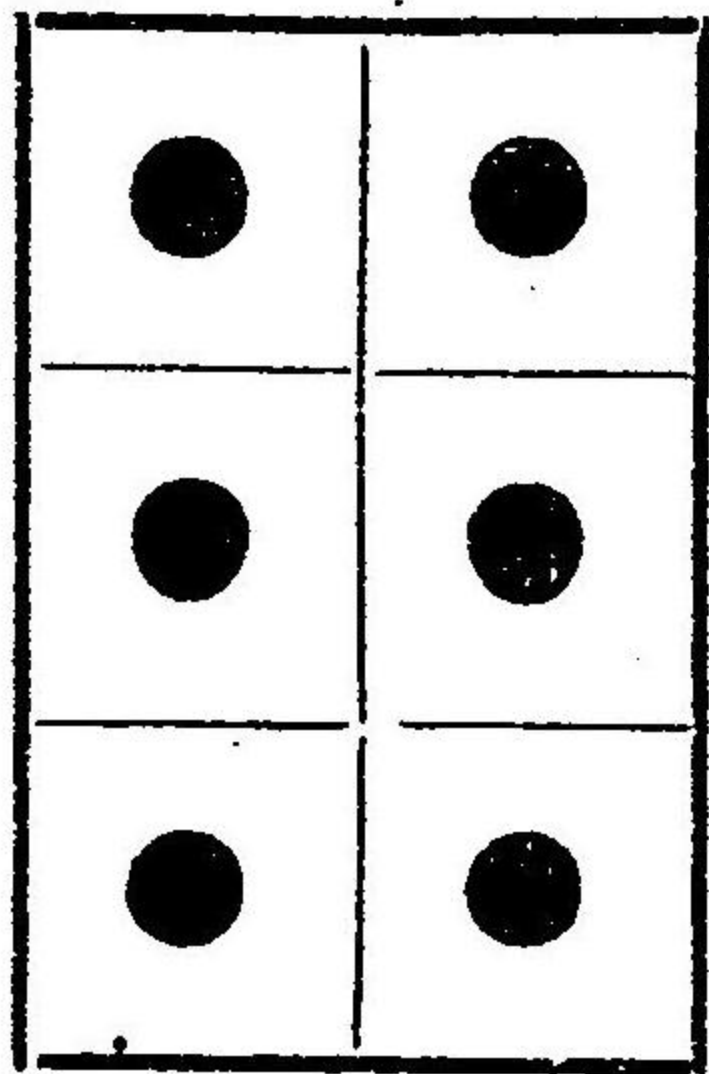
盲人點字獨習書

第一章 點位番號

點字の形は點の數と其配列の異なるに従ひ種々に變化を成すものなり而して五拾音點字は僅々六個の點位内に於て殆ど六拾種以上に變化をなすが故に初學者は先づ各字の點數點位を確實に記憶して其字形を充分會得せざるべからず

第四 第五 第六

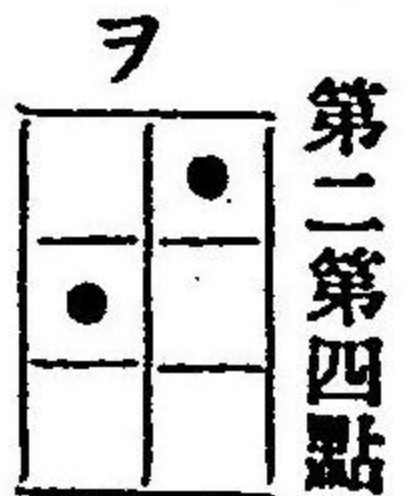
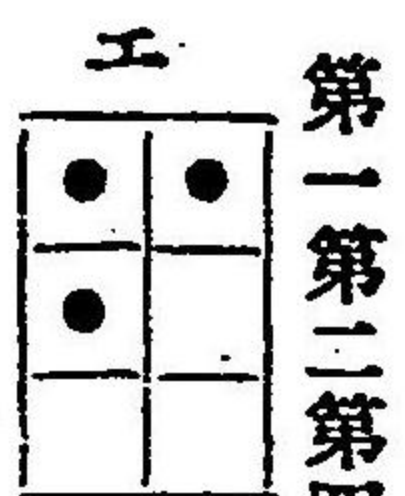
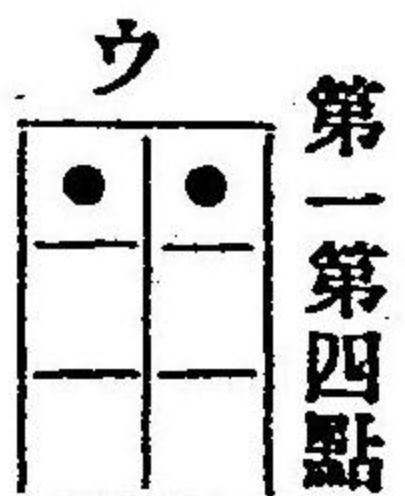
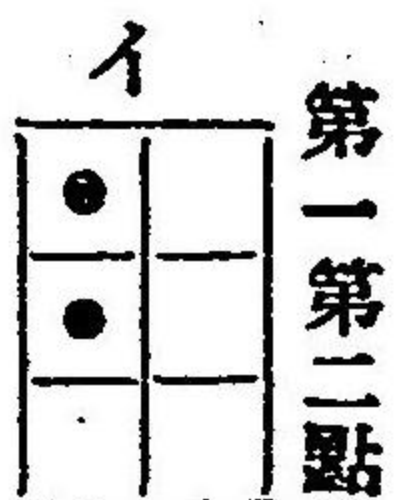
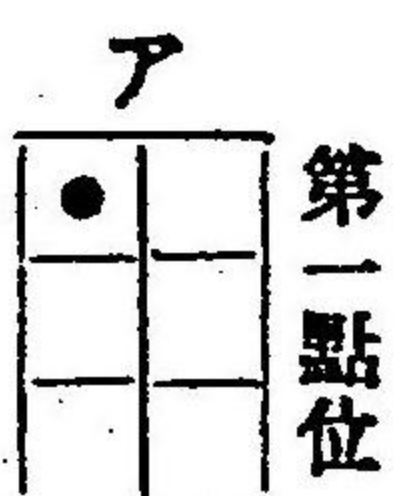
第一圖



第一 第二 第三

點位番號とは各字の點位點數を暗記するに便ならしめんが爲

に第一圖の如く點字の全點六個(即ち三ヶ宛左右二行に整列したるもの)に左行上段より初まり右行下段に至る迄第一第二第三第四第五第六の番號を附し各字の點位を是に依りて暗記するものなり而して其點位の變化は種々なる字音を表はす假令



こなるが如し
今之を兒童に教授するには専ら練習板を用ひ直ちに其字形を探らせつゝ左右上中下と點位を指示せば成績佳良ならん即ち「ア」は左行上段の一點「イ」は左行上段と同じ中段の二點と記憶せしむるが如し教授者宜しく實地に就て經驗せよ

練習 第一

教師は生徒の前に第一號練習板を取り出し

(教師)これは點字練習板と云ふものですよく探つて御覽なさい

片方の端に六ツの粒があります

(生徒)あります三ツづゝ縦に二た並びになつています

(教師)それが點字の全點と申して一字畫のうちの點粒が残らず

しるしてあるのですいつでも練習板を探る時はその六點

(生徒)六點の次に少しはなれて一つの粒がありますがこれが一

字になるのですか

(教師)左様ですそれが一字の假名になつています六點の次が(ア)

その次が(イ)それから次が(ウ)(エ)(オ)と順に書てあるのです

(生徒)一つの粒はいつでも(ア)ですか

(教師)そうではありません同じ一つの粒でもその置きどころが變れば違つた字になりますつまり粒の数が同じでも位置が違へば別な字が出来ます此の(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)の内にも(イ)の字(ウ)の字は同じ二つの粒ですが(イ)の字は縦に二つ(ウ)の字は横に二つ又た(オ)の字は筋違に二つあります此の通り粒の置き場所が變るのを覺える爲めに點位番號と云ふ事を知らなければなりません

(生徒)點位番號と云ふのはどう云ふ譯ですか

(教師)假名の點字は一字畫の内にある粒の数が一つから六つまでより外にありません即ち全點六つは一字の粒の最も多ひのですそしてその外の假名は皆なこの六粒の圍ひの中で一つ或は二つ三つ四つ又は五つ六つと数が違ひてその

位置もあちこちとかわつていますから丁度六十種程の點字がどれも形を變えていますそこで此粒の場所と數とを一々覺えるには全點六つの左の上の粒から一、二、三、四、五、六と番號を付け各字の粒をこの番號の順序で暗記するのです此の番號が即ち點位番號と云ふのです

此の時教師は厚紙を取り出し小刀の尖を以て指頭大の六つの穴をあけ恰かも全點の形を造り丸き小石を持ち來りて一つ一つその穴の中に入れ生徒の手をこりてこれを探らせながら言ふべし

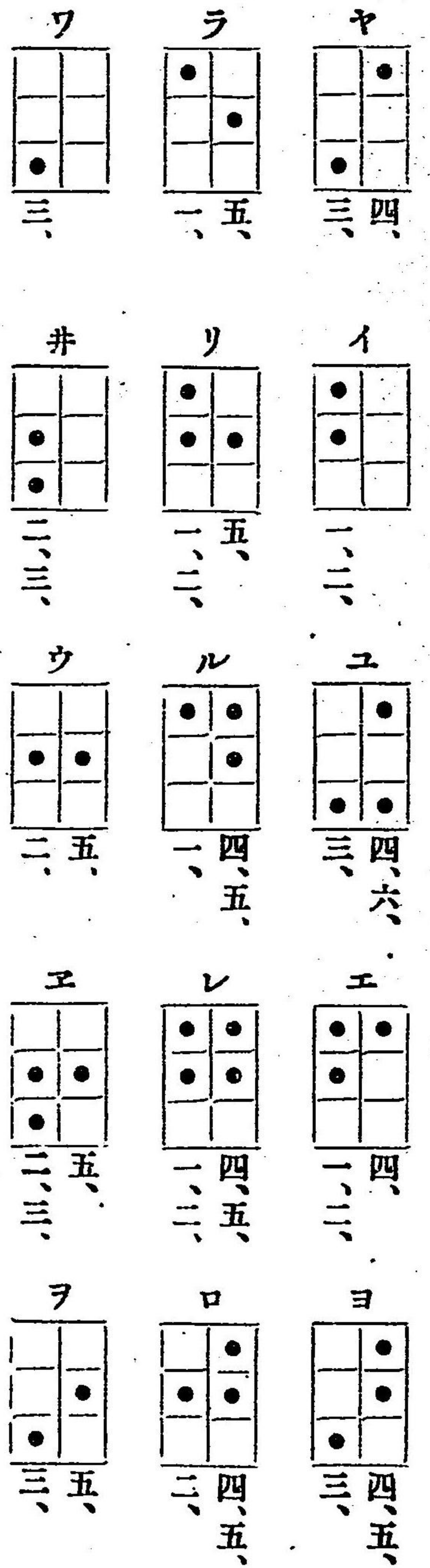
(教師)こんな形に並らんでいますから大きな全點六つの形が出來ていましたよそこであなたの方からむいて左の上が第一點位その下が第二第三右の上が第四其の下が第五第六點位です其順に石を取りのけて御覽なさい

(生徒)左の上から一二三右の上から四五六これでよいのですか
 (教師)よろしいそこで其後の穴を探つて御覽なさいやはり全點
 六つと同じ形ですこの穴に今の順に番號を付け第一番の
 穴に石を一つ置いて御覽なさいそれが即ち(ア)の字です今一
 つ二番の穴に置けば(イ)の字になりますよふ今度は一番と
 四番の穴に置いて御覽なさい(ウ)になりますよふこんな理屈で一
 から六までの點位番號があります

(生徒)をふする(ア)の字が第一點位(イ)の字は第一第二點位(ウ)の
 字は第一第四點位(エ)の字は第一第二第四點位(オ)の字は第
 二第四點位と覺ゆればよいのですか
 (教師)左様です

第二章 五十音表

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ



練習 第二

(教師) 點位番號の理屈がをわかりになりましたら五十音の假名點字を覺えるにはむつかしくありませんその第一號練習板を裏かへして御覽なさいそこにも左の端に六つぶの全點がありましょふそのあごにはやはり五つの假名がかいてあるので(カ)キ(ク)ケ(コ)です

(生徒) (カ)の字は餘程はなれて二つの粒がありますが何番と何番

この點位ですか

(教師) 上の粒が第一點位で下のが第六點位です能く探つて御覽なさい下の粒と上の粒とは少し筋違になつて丁度全點六粒の圍の中で上の左の角と下の右角にあります

(生徒) そうする(キ)の字は第一第二第六點位ですか

(教師) 左様ですそんなぐあいには凡ての假名の點位を暗記すればよいのですさて爰に一號より五號まで五本の練習板がありますこれは一本に裏表拾字宛五本で五十音の假名が書てありますから一日に一本分宛の假名を暗記しますなら五日立てば五十音は残らず覺えられる勘定ですをふすれば

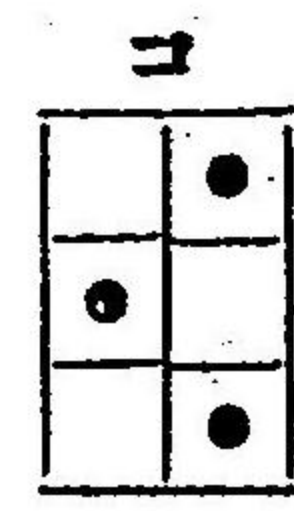
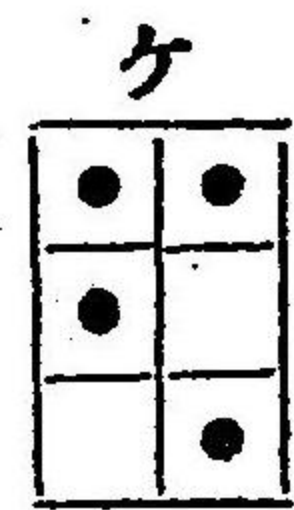
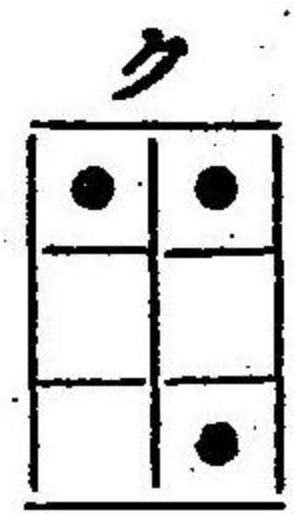
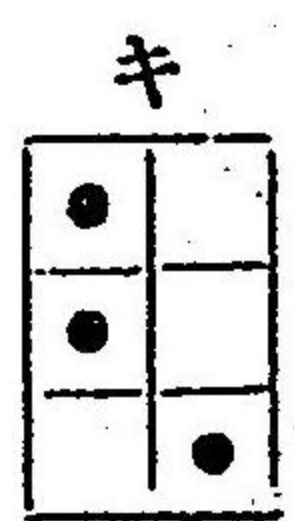
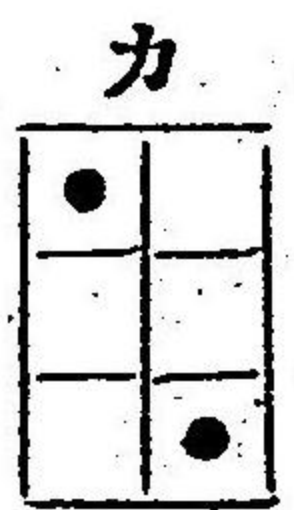
ば直に點字本を讀む事が出來ます

著者の宅に淺野勘造と云ふ徒弟あり今年八歳の盲兒なるが此一月より點字の稽古を初め僅一週間にして悉く五十音を覺へ

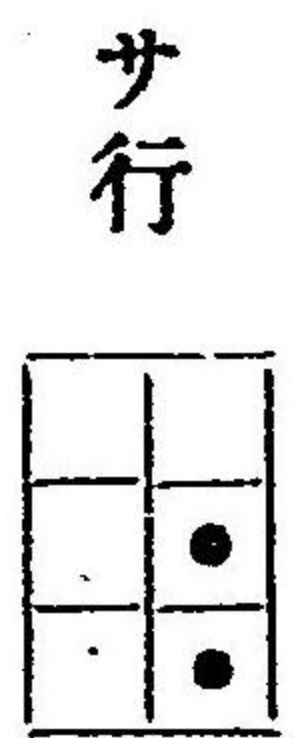
未だ四ヶ月ならざるに最早尋常小學第二年の讀本を容易く讀み得るに至れり點字を學習するここの困難ならざる以て知るべし

第三章 假名點字の組立

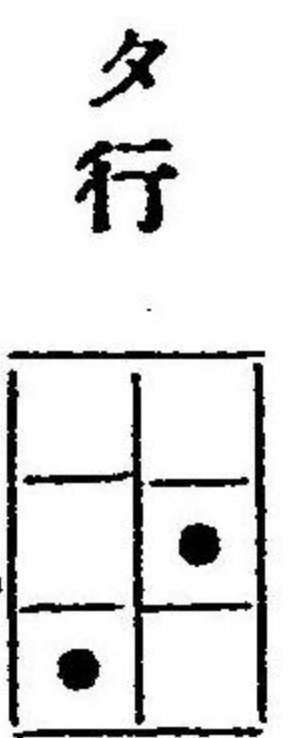
五十音點字は以上の如く極めて多くの變化を成すものなるが故に漫然是を視れば甚だ複雑にして容易に眞意を了解し能はざる如く思慮すれども此變化には自ら整然たる關係有るものなり故に是を學ぶもの須らく其順序關係を知悉せざるべからず左に是を説明すべし
五十音中の母音即ち(アイウエオ)五字の點位を基礎として是に子音各行に有する一定の子音點を附加すれば各子音の點字を作る事を得例へば



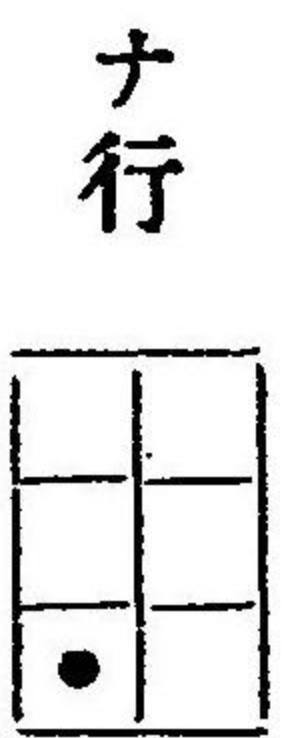
の第六點位は(カ)行に有する子音點にして之に五つの母音を附加し以て(カ)行各點字を成るが如しされば(カ)行各點字より母音の點位を除き去れば残る處は其子音點たり以下(サ)(タ)(ナ)(ハ)(マ)(ラ)の各行の子音點を知んご欲せば其各點字より母音點即ち(アイウエオ)の各點位を除去すべし其殘餘の點位は即ち左の如し



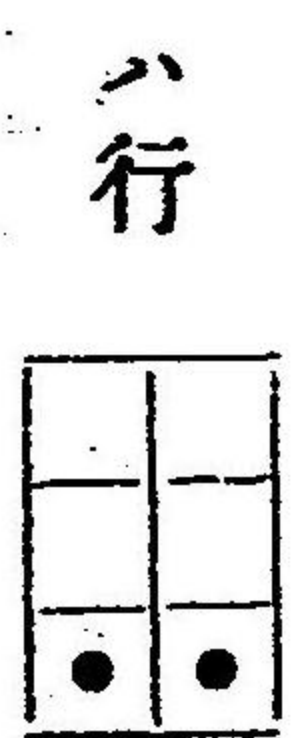
第五、六點位



第三、五點位

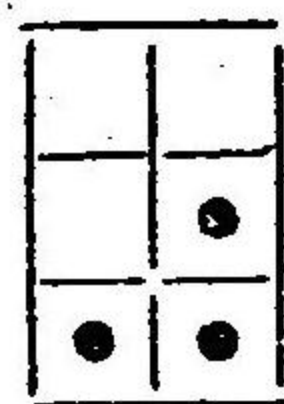


第三點位



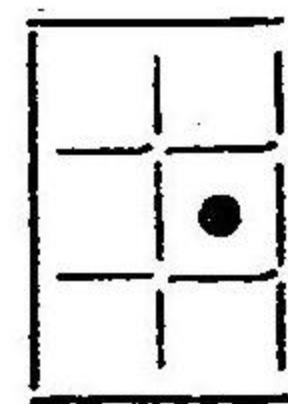
第三、六點位

マ行



第三、五、六點位

ラ行



第五點位

是其各行に有する子音點なりとす
 但し(ヤ)行は第四點位を子音點とし(アウオ)母音點を最下段に下げたるものと配合して(ヤユヨ)の三字を作り其(イ(エ)は母音(イ(エ)と同音と見做し別に是を作らず又(ワ)行は母音(アイウエオ)の點位を其儘下段に下げたるものと知るべし

練習 第三

(教師)五十音の點字はごんな順序で其の點位がかわつて居るのかと云ふことを知らなければ充分に腹に入れることが出

来ませんそこで此假名點字の組立に就て御話いたします
 教師は再び前の厚紙と小石を持つて説明を初むべし
 (教師)先づ(アイウエオ)の五字が土臺に成つてその外の假名はこれにいくつかの粒をたして造るのです先きの通り小石を以て(ア)の字を造くつて御覽なさい

(生徒)第一點位に一つ置きました
 (教師)そこでそれに第六點を足して御覽なさい何と云ふ字になりますか

(生徒)(カ)の字です
 (教師)今度は初めに(イ)の字を造りてまた第六點位を足して御覽なさい

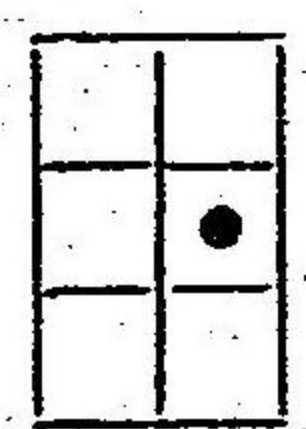
(生徒)第一第二第六點位で(キ)の字でしよふ
 (教師)そして(ウエオ)に同じく第六點を足せば(クケユ)になります

此の第六點位は即ち(カキクケコ)の字を造る時に(アイウエオ)の點位にたすのでこれを名づけて(カ)行の子音點と云ふのです(サシスセソ)(タチツテト)其他何れもその行の子音點があります

(生徒)(サシスセソ)の子音點は第何點位ですか
 (教師)そこに(サ)の字の點位に石を置いて御覽なさいそして第一點位即ち(ア)の字の石丈を取りのけて御覽ん残の石は即ち(サ)行の子音點ですそこで反對に(シスセソ)の點字から此の子音點を取りのくれば(イウエオ)になること云ふことは御わか
 りになりましたよふ

第四章 各種の符號

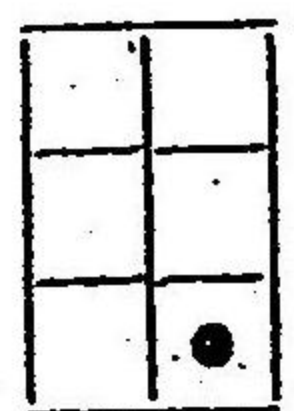
一、濁音符



第五點位

清音の前に置き濁音字を作る

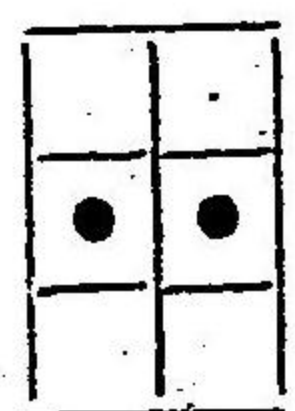
二、半濁音符



第六點位

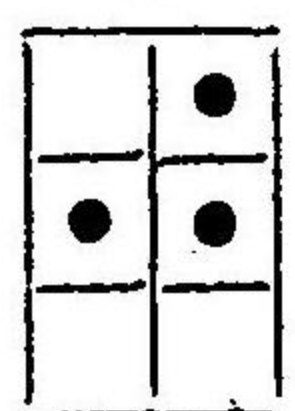
清音の前に置き半濁音字を作る

三、長音符

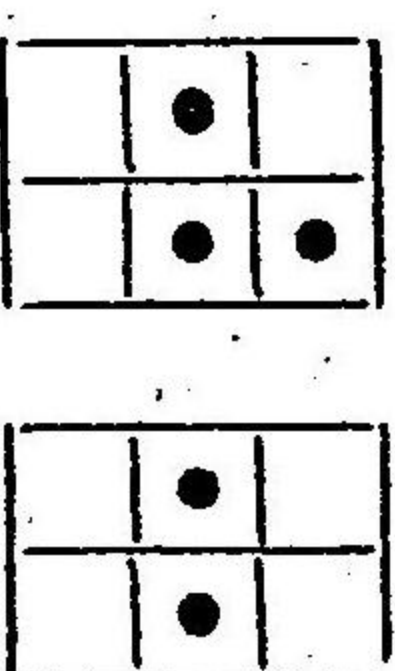


第二、五點位

假令ば(ローソク)と綴る時

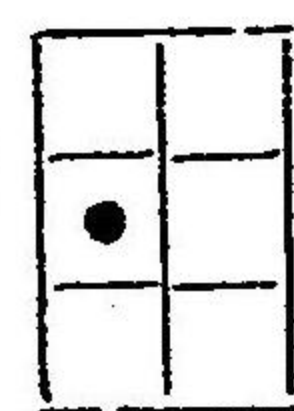


の次に置くこと



の例に於けるが如し

四、促音符

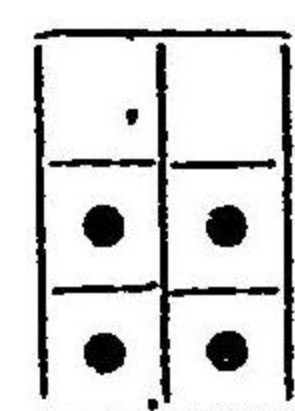


第二點位

假令ば(ラツパ)と綴る時に(ラ)

又(テ)の次に置くものにして(ツ)の小なる文字を顯す時の符號なり

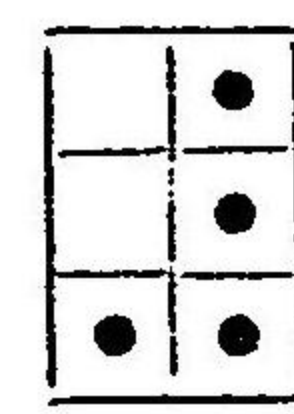
五、括弧符



第二、三、四、五、六點位

即ち () { } の符號なり

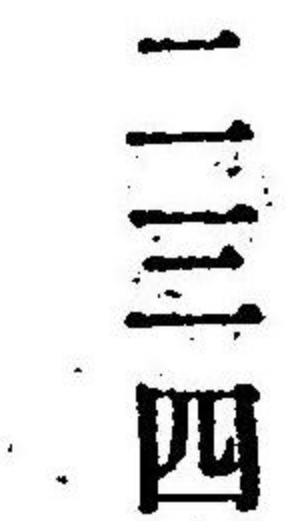
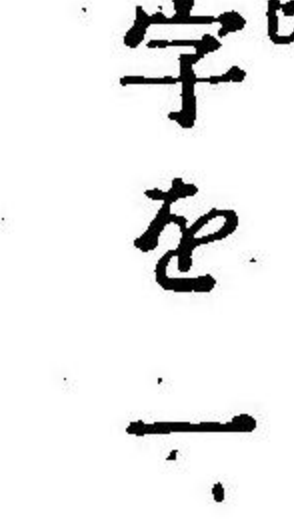
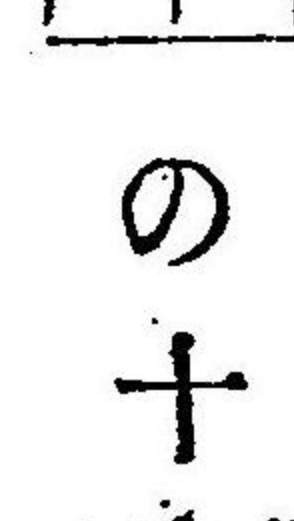
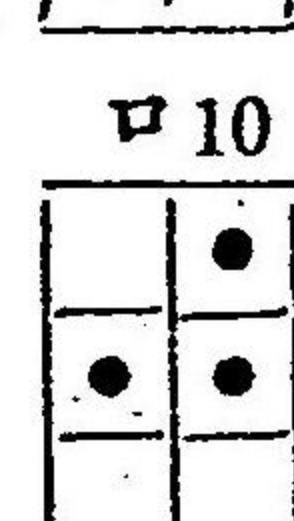
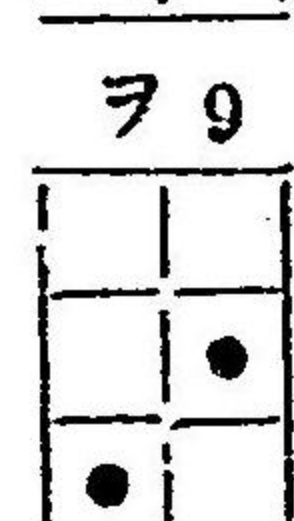
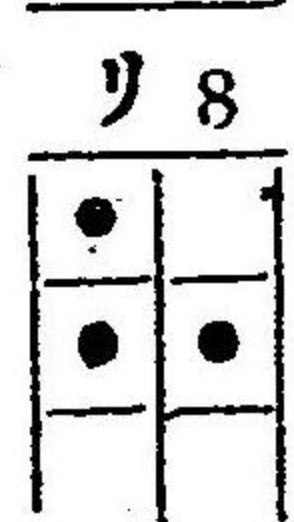
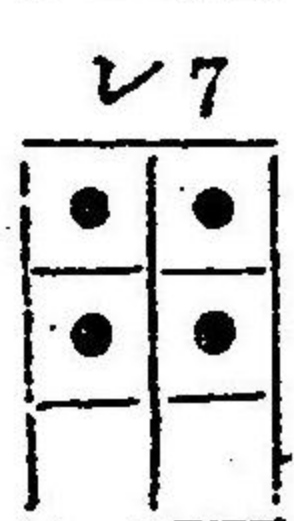
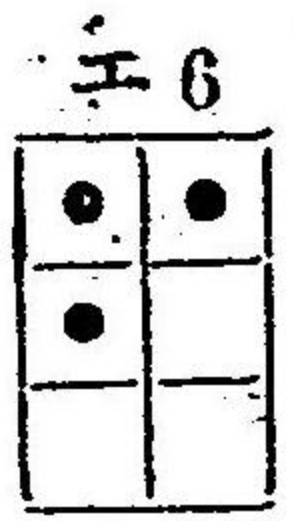
六、數字符及數字



第三、四、五、六點位

數字を記する時に用ゆ數

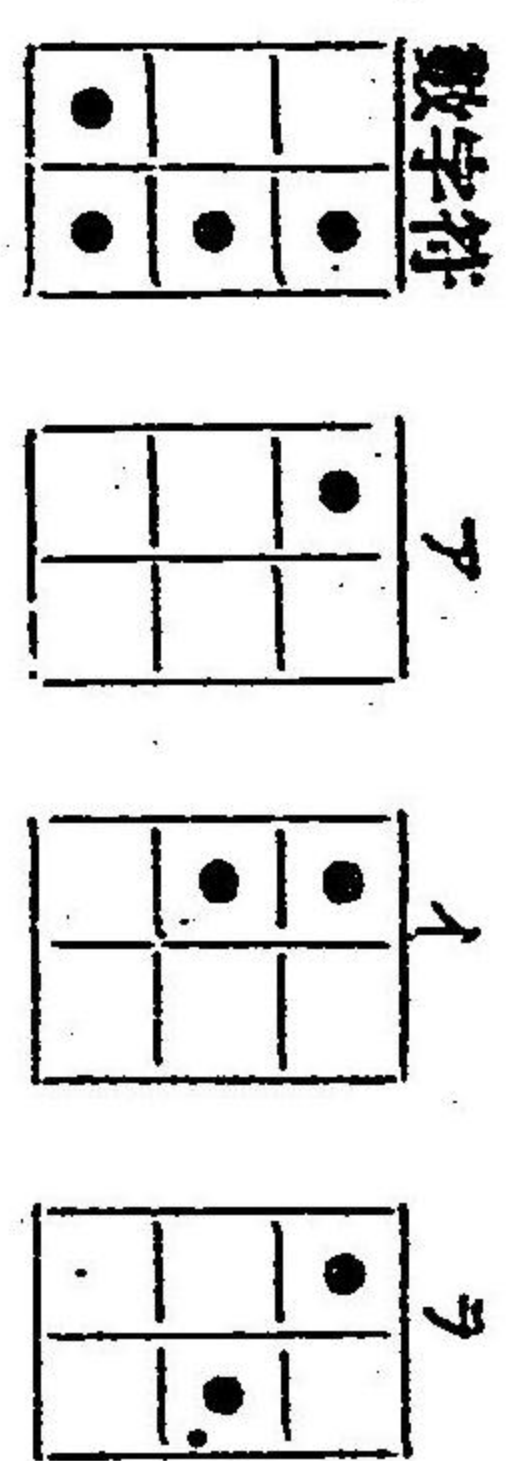
字は五十音點字の



の十字を一二三四五六

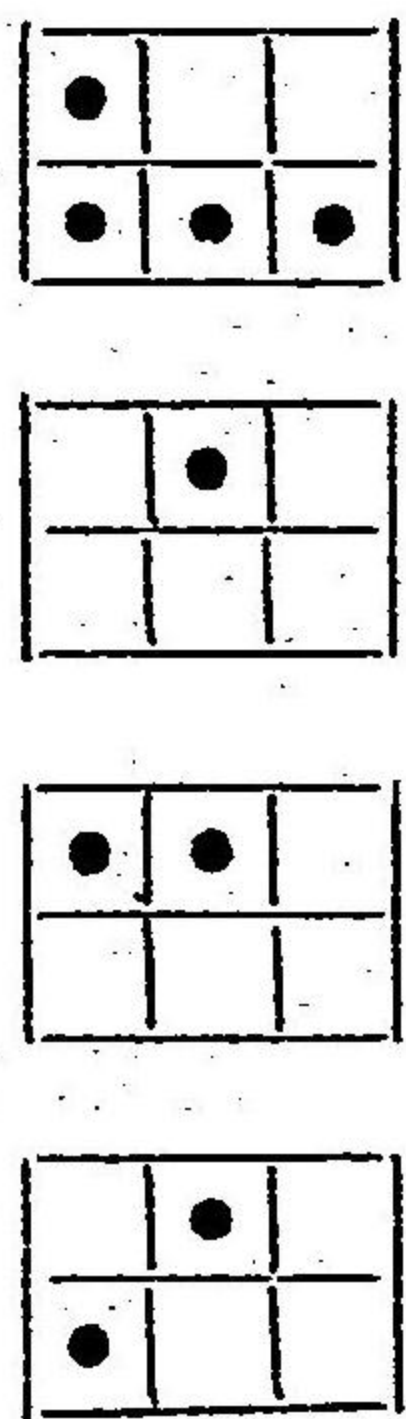
七八九〇に代用するものにして數字符號は即ち此數字の
前に置き五十音との區別をなすものなり假令ば百二十五

と記するには

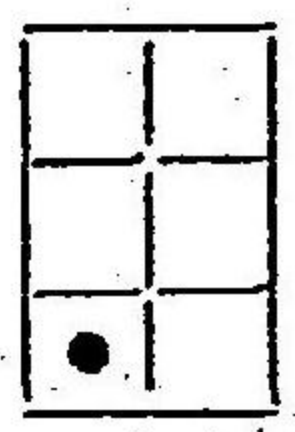


と書するが如し但第百二十五(即ち番號)を表す場合には特
に一點位づゝ下ぐべし然る時は前記の(アイラ)は即ち

の如く變ずるなり



七、コンマ符

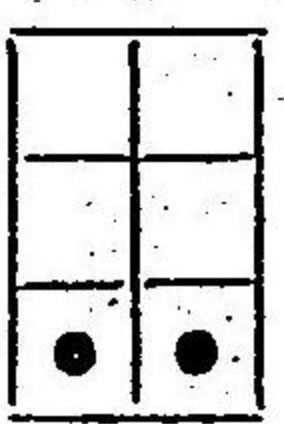


第三點位

専ら數字を記する時に用ゆるもの

にして假令ば「い」を記する場合に用ゆる

八、接續符



第三、六點位

綴りの接續を示すものにして假令

ば(ニグルマ)と云ふ一語の綴りが二行に跨る時に其行の終

り若しくは次の行の初めに置きて一擦接續を明瞭ならし
む

練習 第四

(教師)五十音の假名を覺ねましたならば次に符號と云ふものを
習はなければ點字本を讀むここが出来ません

(生徒)符號と云ふはやはり點字ですか

(教師)やはり一つの點字ではありますが假名ではありませんか
ら一つ一つに名前が付けてあります濁音符、半濁音符、長音
符、促音符など凡そ八つ程あります

(生徒)それを覺ねますにはどうするのですか
(教師)これもやはり全點六粒の内、點位が變わつて居ますから

點位番號で暗記すればよいのです五十音を覺ねましたならばたやすく習ねますから別に練習板を造つてありませ
 んそれで直に點字本に書いてある各種の符號を探つて御
 覽なさい
 (生徒)符號はごふ云ふ所に用ゆるのですか
 (教師)そのつかい方は種々ありますから點字本を御讀みなさる
 時に御話し致しませふ
 是に於て教師は點字書を出して生徒に渡す
 (教師)これが自宅獨習の點字本で尋常小學第一年の教科書を寫
 したものです

第五章 點字文の讀方

初學者既に五十音及各種符號の點位を記憶したるものは更に
 是より點字文の讀方を習ふ事を得べし凡て點字文は歐文の如
 く横に左より右に書列ねたるものなれば是を讀む方法を熟知
 すべし
 第一 左の食指を延し其指端の知覺によつて字點を探り知る
 やう軽く紙面を擦過しつゝ讀行くものなり
 第二 延したる食指は常に讀行く方向と殆ど直角の位置を取
 り少しく天地に移動しつゝ字點を探り行なり能く指端の知覺
 を練習する時は僅かに一擦過の知覺はよく自由に字點の位置
 と數を知得せしむるものなり若し此熟練功を積まば通讀の速
 度に於て普通の人の墨字文を讀むと敢て異ならざるに至る

第三 讀方と書方を同時に進行する場合、少ならず而して右手は常に書方に使用する事、勿論なるが故に必ず左手を讀方に慣用すべし、殊に指端の知覺を鋭敏ならしめんが爲に、いつも同一指、即ち左食指を慣用すべき、必用有なり。

練習 第五

教師は點字教課書を生徒の前に置きながら

(教師) 點字本は、これでも綴目を左にむけて開けるのです。此本の

第一ページに書いてあるのは、五十音です。能く探つて御覽

なさい。

(生徒) やはり練習板の通り、左から探るのですか。

(教師) 左様です。左の端から右の端まで讀みましたならば、今度は指を少し下にさげて、今讀だ並びに添ふて、左に戻り、次行を

探る様に、するのです。

(生徒) 此の第一ページの終りの方に、一點づゝ横に長く並んで居

るのは、何ですか。

(教師) それは、一つの線で、文章の初め、亦た終りの境を記してある

のです。

(生徒) その線の下に書いてある點字は何ですか。

(教師) それは、前に申した符號の内の濁音符の使ひ方が記してあ

るのです。(カキケユ)の前に第五點位が一つづゝ置てあり

ます。よふその第五點位が、即ち濁音符です。

(生徒) この裏には、何が書いてあるのですか。

(教師) そこは、即ち第二ページで、各種の符號の使方を示してあります。ますが、教ねる人の参考までに、書いてあるのです。から、次のページに移つて、稽古致しましよふ。

教師は自分の指を持つて「イ」……「イス」と書いてある點字を向ふから探りながら生徒の人差指をそこに導き先づ「イ」の一字を探らせて發音させ次に「イス」と探らせて「イス」と云ふ單語を發音さすべし

(生徒)なぜ「イ」の字が二つ書てありますか

(教師)それは墨字の本には椅子の畫を書いてそのわきに「イ」の字が一字書いてあります。點字の本には畫を書くところが出來ませんから「イス」と云ふ言葉を畫のかわりに書いてあるのです。そのつぎに一字分ほどはなれて「エ」の字があつて次に「エダ」と書いてあります。こふ云ふぐあい。一つの言葉はつゞけて書くのが點字文の綴り方の規則で言葉と言葉の間には必ず一字以上の間があけてあります。教師は讀行く方へ自分の指を送り生徒それに連れられて探り

行けば誤りなく讀み行く事を得。但しこれは始めの間の事にて二三回の後は生徒自身にて探り行くことを得べし。(教師)あまり指先に力を入れては粒がつぶれます。殊に爪がさわならぬよふに氣をおつけなさい

第六章 點字の書方(點字盤使用法)

凡て如何なる文字も其讀方を知るに共に又其書方をも知らざれば効用甚だ少きが如く點字に於ても亦然り。故に點字を學ぶ者は同時に其書方をも習はざるべからず。而して點字を手記するには第二圖の如き點字盤と稱する簡單なる器械を使用するものなるを以て初學の人は先づ此器械の使用法をも知らざるべからず。今其使用法の大要を左に記さん

一 用紙の装置
用紙は普通の畫用紙(五百枚の重量七十斤乃

至百斤のもの)を九枚に切り(約縦七寸横五寸)其横巾を盤面より三分通り廣くし此廣さ丈を一方の端に寄て折り(製本の時綴装に便ならしめんが爲)其の折口を表に向けて而して上方の一端を留め板に差挟むなり

二、定規板及針の使用法 定規板(圖には定木とあり)は用紙を挟みて點字を手記すべき二行の字座を有する二枚の金屬製(第一圖の内H)にして盤の兩端を穿てる安定孔(圖には安定穴とあり)に依りて盤面に安置し得べく而して手記せんと欲する位置に隨意上下に移動し得べし

針は母指食指中指の三指を以て握把の部をつまみ針尖を垂直にして適當の力を以て定規板の字座に當れる紙面を突きて己が隨意の點字を表すものなり

前記の方法に依りて手記せる點字は讀方の時は其點位全く

反對にして所謂左文字となるなり如何かなれば凡そ突出せる部分によりて字點の數を知るものなればなり故に右より左に向つて書き記すものご知るべし又裏面を書するには既に顯はれたる表面の字行間に書するものなるが故に最初用紙を盤面に装置する時一行分下方に譲り置くべし此装置は留板に設けある止針第二圖の内Kの作用に依るものなれば實地に付考ふれば直ちに了解せらるべし

練習 第六

教師は右に記せる要領に従つて點字盤の装置を終はり
(教師)此の通り紙の折り目が右の方になつて居ますとして定規板は上の第一行を書くようにはめてあります

(生徒)これで直に書くことが出来ますか

(教師)直に書いてもよいのですけれども初學の人は針尖を自由に字座に持込む事が出来ないものですから先づ手ならしに全點をついて見るのです即ち(メ)の字を續けて書くのですそれから(ホ)の字(ヤ)の字(ウ)の字などを續けて五六枚づつ書いて見るのですそうすれば自から手の運もなれて隨意の點字を書く事が出来ます

(生徒)どの位の力で突けばよろしいか

(教師)あまり強くは紙が破れます又あまり弱くは粒が出ません丁度針尖が字座の底につく丈の力でよいのですそして又針尖を横にすべらすれば粒が出て紙が破れます亦初めの間は思ふ處の粒穴に針尖を持込む事が出来ないから紙の面を針尖で探るので疵がついて讀む時手さわりに

なりますゆる氣をつけねばなりません

爰に於て教師は針を持たせ自分の手を之に添えて第一行の右の端即ち紙の折れ目の方の初めの字座に針尖を持込ませ右行上段の一點を突かしむ

(教師)これが即ち第一點位の(ア)です裏がへせば丁度左行上段の點位が記されてあります

(生徒)反對の字になりますか

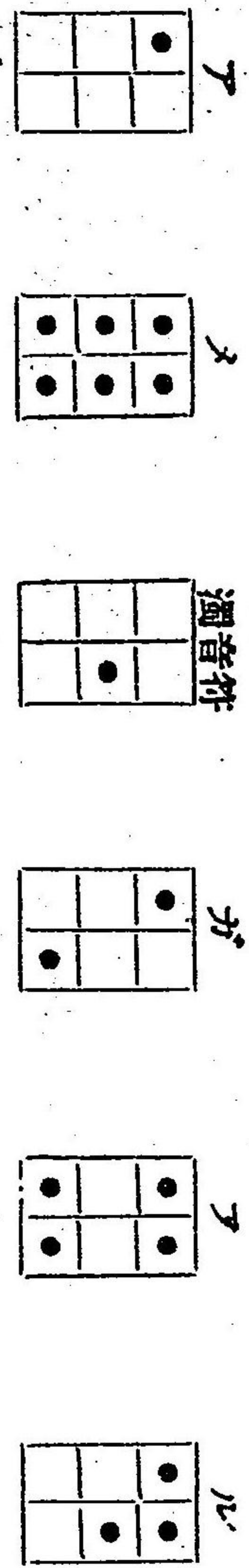
(教師)左様ですつまり左文字を書くのですから點位番號も右の上が第一點位左の下が第六點位となりて書き行く方向も右より左にかきつらねなければなりません

第七章 點字文の綴

點字文は一種の假名文なり故に之を綴るには其假名遣の上に

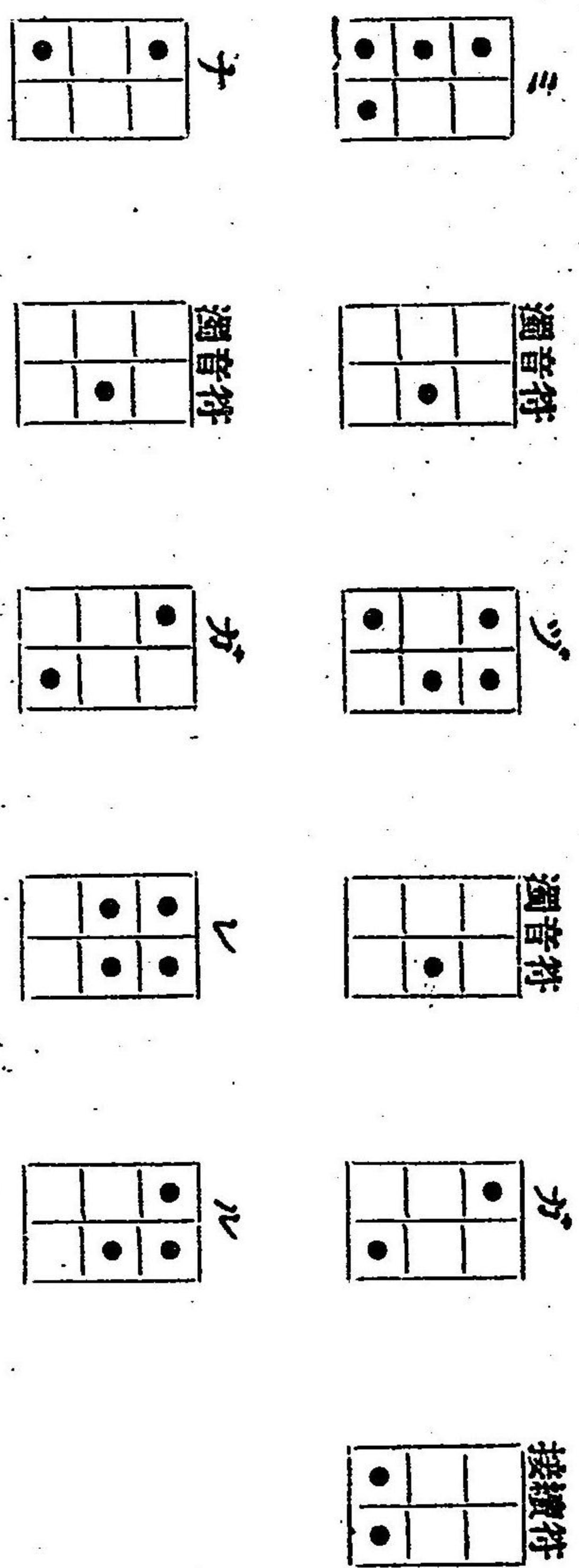
十分の注意を要す若し變則なる假名を使用せば文章殆ど解すべからざるに至る然るに國音假名遣の法たる是を學ぶに易からず此小冊子に於て到底是等を説明する事能はざるを以て初學者は宜しく別に其師を求めて研究せらるべし而して多くの點字書籍を讀み多少の經驗を積みなば自ら點字文の必要なる假名遣を會得し得るが故に茲に初學者の心得べき要點の二三を擧ぐ

一、點字文は一語を一綴とし綴と綴との間に一字丈の空座を置くべし例之

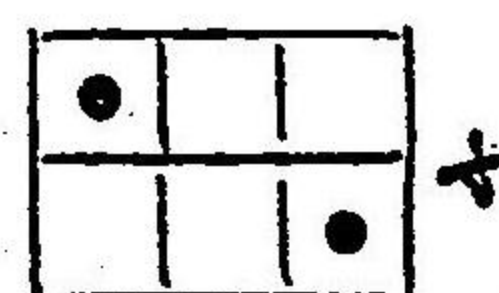
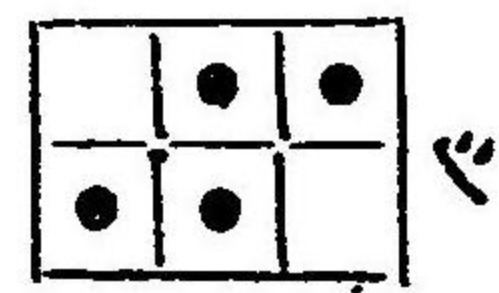
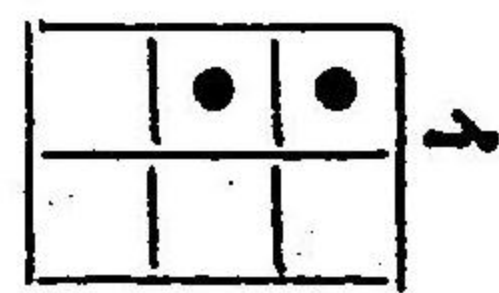
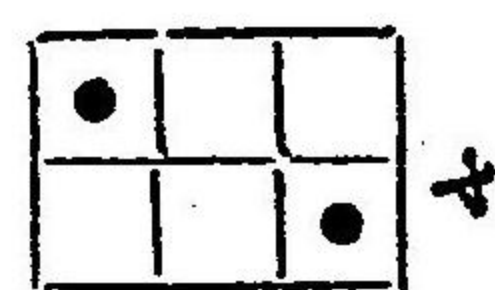
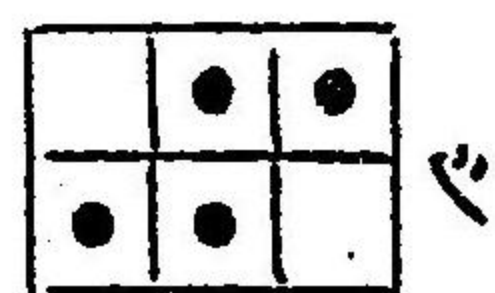
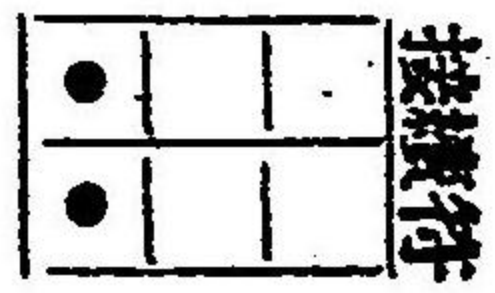
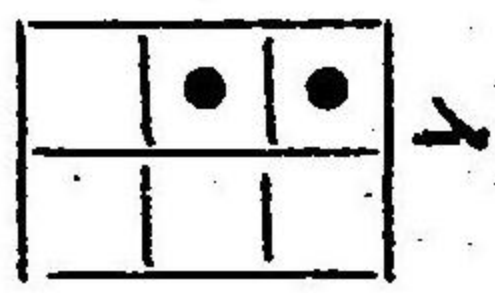


の如し而して一つの綴が二行に續く時は其上段の末尾若くは次行の初めに接續符を置きて一語の連接を明示すべし(第四章参照)

二、拗音を記すには別に拗音畧字あれば附録を見よ之を用ゆべきなれども初學者の爲には稍複雑なるを以て簡易法に従ひ接續符を拗音の前に置きて類似の熟音と區別せしむべし假令ば醫者に石屋との間違を防ぐ爲に醫者を

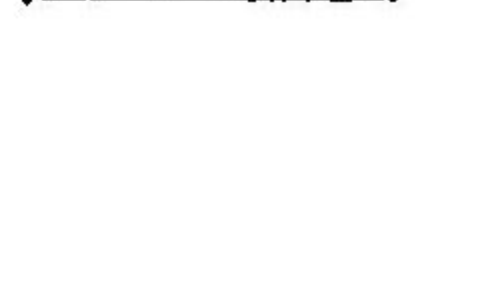
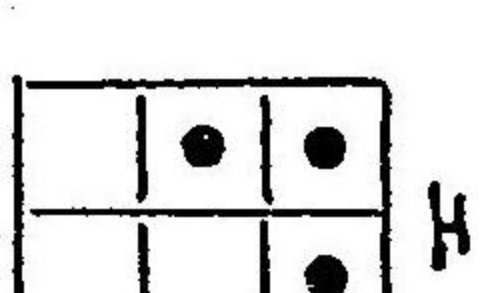
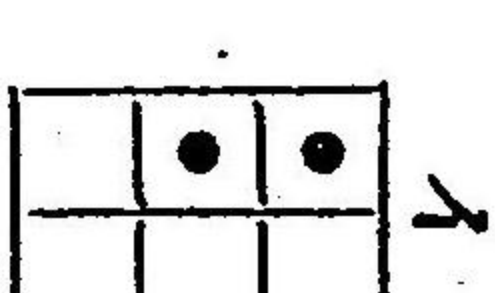
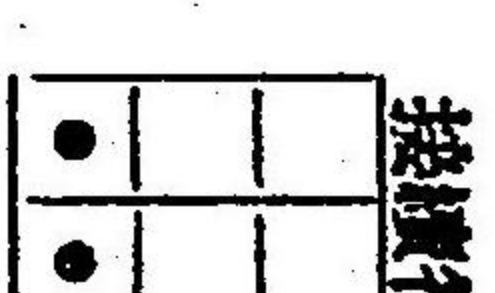
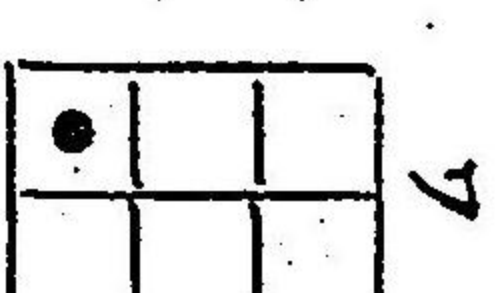
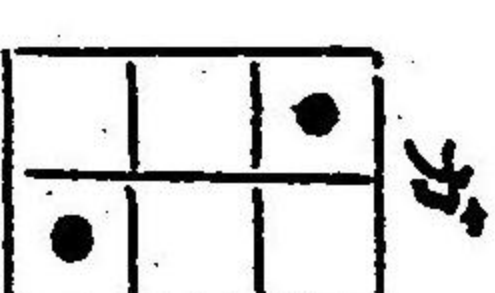
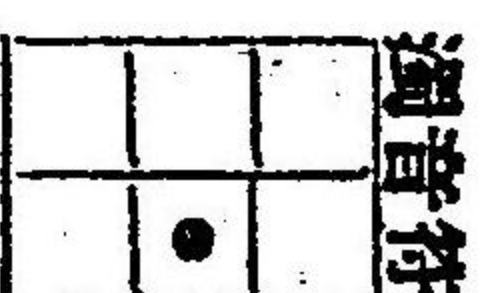
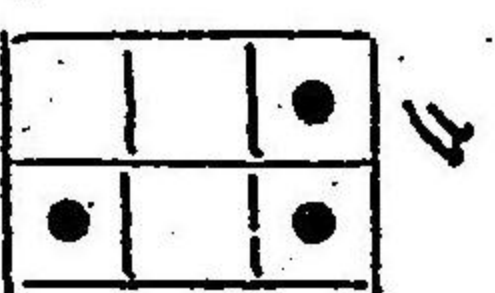
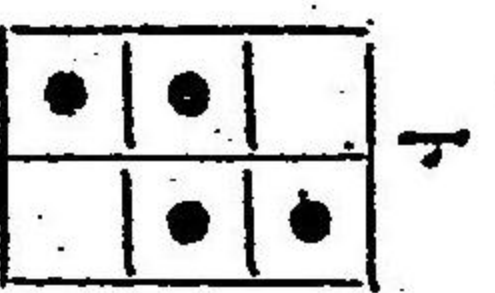


こ書し石屋を

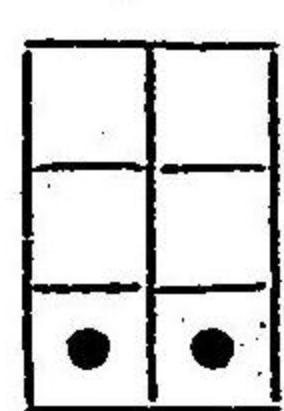


こ書するが如し

三人名を書するに當り姓と名とを區別するには假令ば



こ書き姓と名との間に接續符號



を用ひて一擦判別し

易からしむる様にすべし

以上説明したる所に基き實地教授を爲さんとするには點字及練習板に参照して多少の研究を爲さざるべからざるを以て教授者は宜しく先づ此書に示す處の要領を綜合して研究せられんことを望む

盲人點字獨習書終

附録

拗音畧字

拗音畧字とは(キヤ)(キユ)(キヨ)(シヤ)(シユ)(シヨ)等凡そ三十六個の拗音を記するに用ゆる一種の畧字なり即ち左表の如し

拗音畧字表

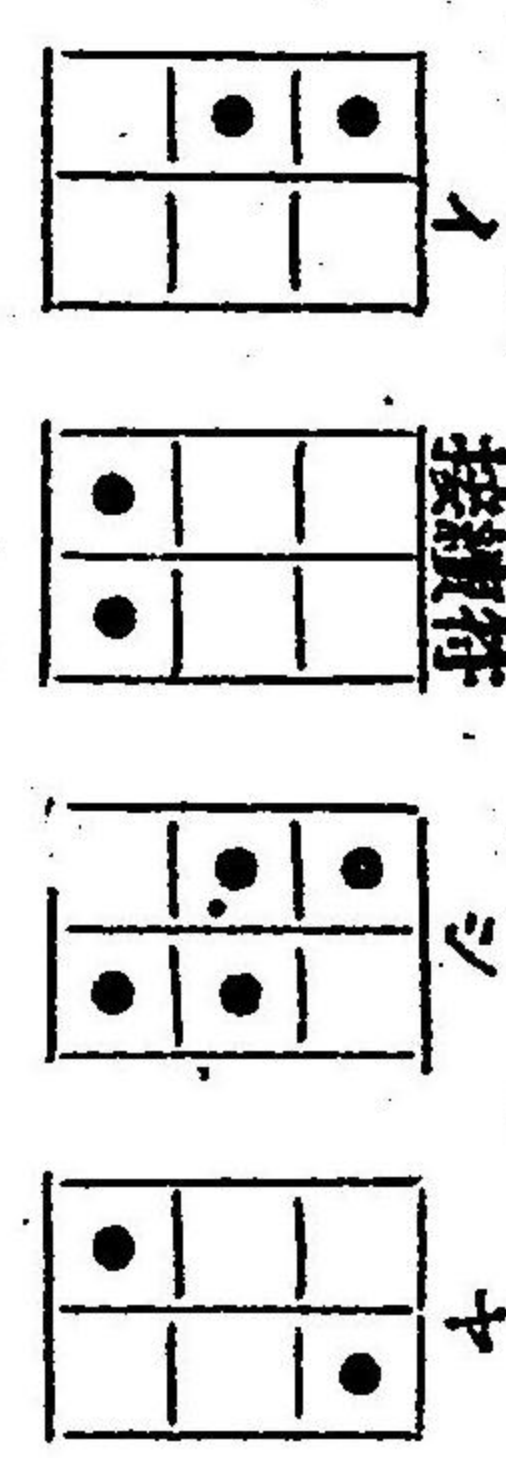
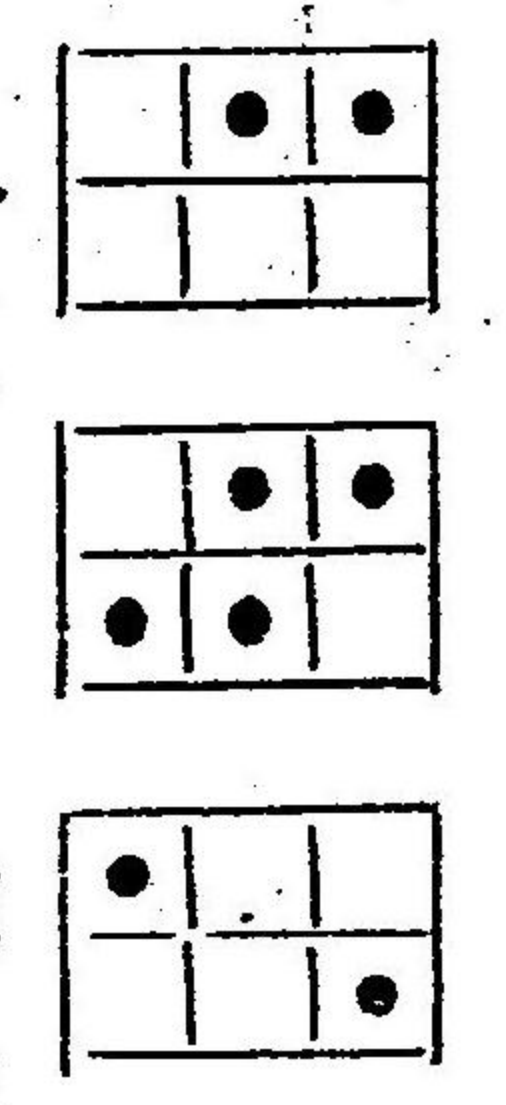
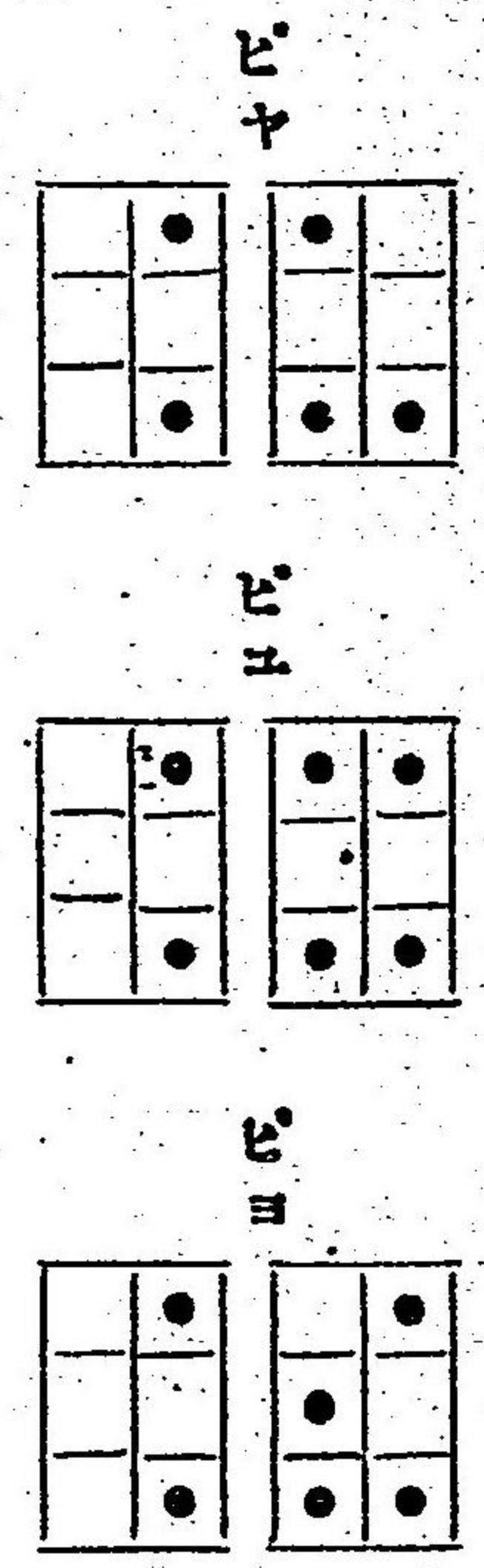
<p>チヤ</p>	<p>キヤ</p>
<p>チユ</p>	<p>キユ</p>
<p>チヨ</p>	<p>キヨ</p>
<p>ニヤ</p>	<p>シヤ</p>
<p>ニユ</p>	<p>シユ</p>
<p>ニヨ</p>	<p>シヨ</p>

ヂヤ	ギヤ	リヤ	ビヤ
ヂユ	ギユ	リュ	ビユ
ヂヨ	ギヨ	リヨ	ビヨ
ビヤ	ジヤ		ミヤ
ビユ	ジュ		ミユ
ビヨ	ジヨ		ミヨ

但し拗音を記するに必ずしも此の畧字を用ゆ可き限りならず初學の人には或は却て難解煩雜の虞あるが如し故に余が出版する點字教科書は本書第七章中醫者石屋の間違を防ぐ爲めに(イシヤ)なる拗音を記するに

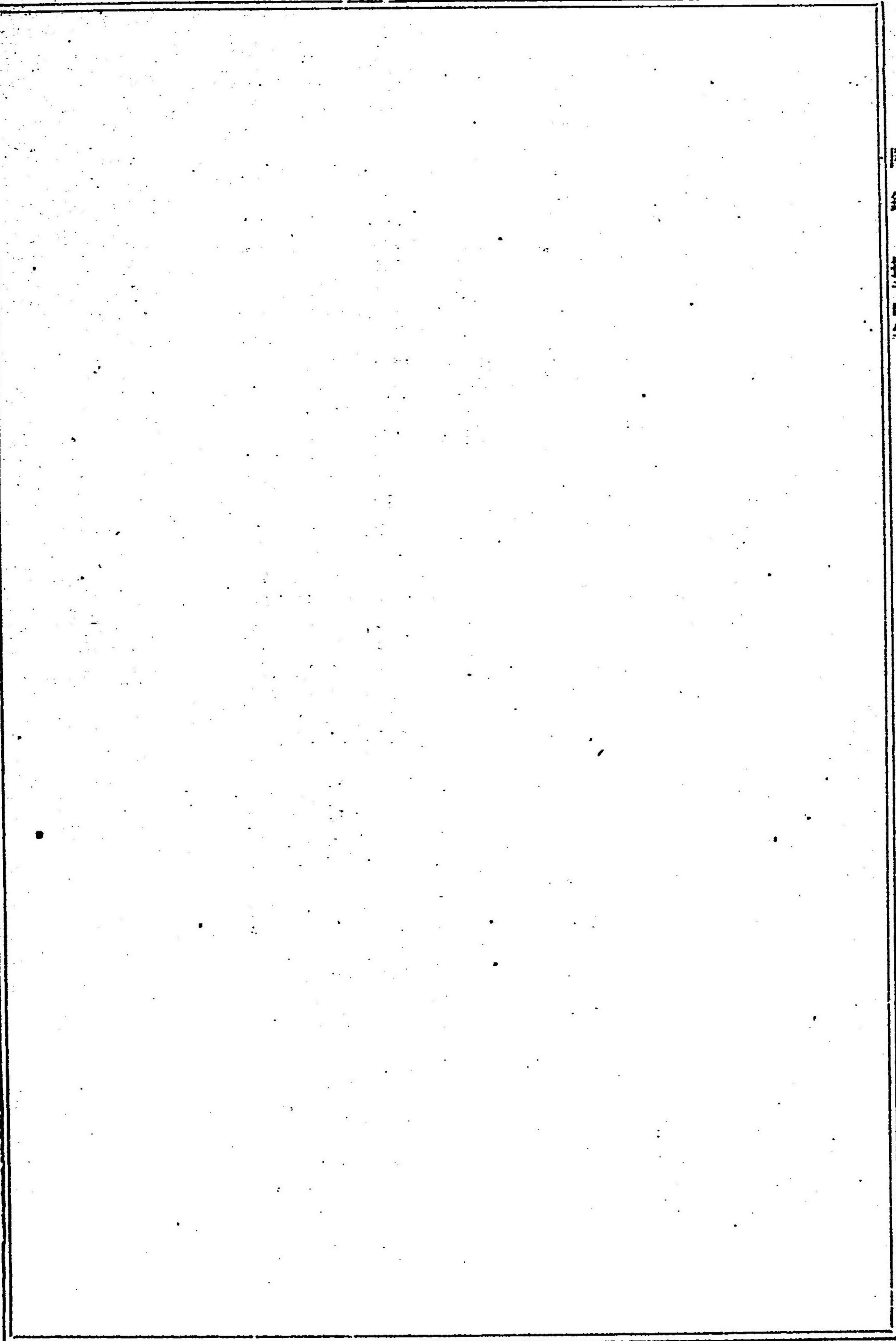
ヤを記するに

字の起因に就ては少しく説明すべきことあれども初學者の爲めに必要なきを以て之を畧す



こ書する例に倣へり尙ほ此の畧

こ書し(イシ



明治三十八年五月四日印刷
明治三十八年五月十日發行

定價四拾錢



著者兼發行者
神戶市大開通三丁目廿八番屋敷
左近 允孝之進

印刷者
神戶市大開通三丁目廿八番屋敷
菅間 徳次郎

發行所
神戶市元町通一丁目三番屋敷
如 泉 堂

印刷所
神戶市元町通一丁目廿四番屋敷
福音印刷社 神戶支店

大賣捌所
神戶市元町通一丁目三番屋敷
福 音 館

全
神戶市北長狹通六丁目七十六番屋敷
福 音 舍

8/15/41

盲人 左近允孝之進著

盲人之教育

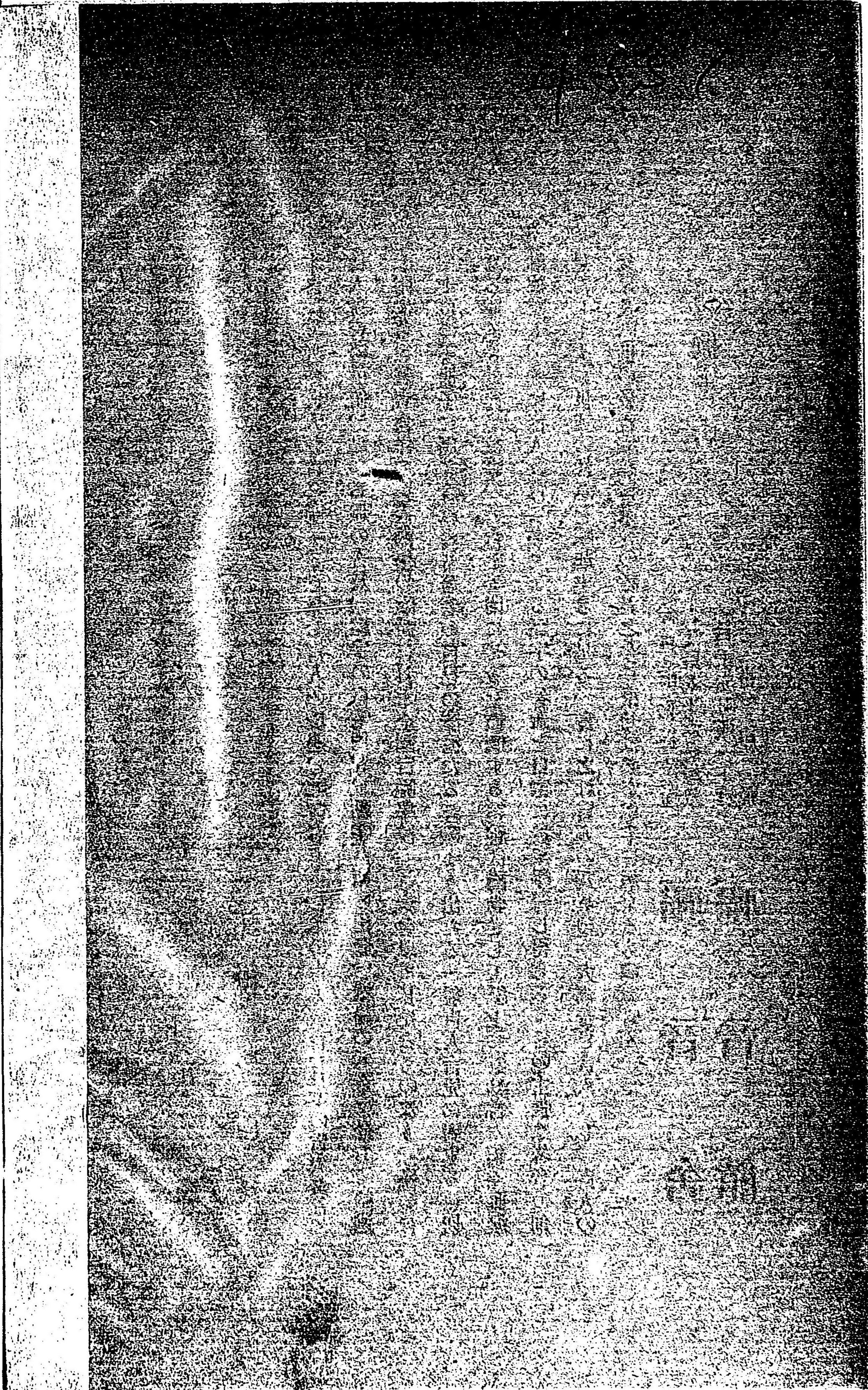
定價 五 錢
郵 稅 二 錢

本書は著者の盲人教育に関する意見を盲人の境遇、社会事業としての盲人教育、日本の盲人教育、盲人教育の價值、點字智識の普及、點字の自宅獨習、點字書籍の出版、結論の八章に分ちて論述し附するに著者自作の盲人勸學の歌並に日本全國盲啞學校一覽表を以てしたるものなり、僅かに三十頁の小冊子に過ぎざれども著者が自己の慘澹たる経験より出たる一般盲人盲兒に對する熱切なる同情と社會が彼等の教育を等閑にせるを憤慨する精神は轉物として紙上に溢れ言々句々血涙淋漓たり、殊に盲人教育に必要な點字の智識を自宅に於て學習し得らるゝとの主張は著者の創見として大に世人の注意を喚起するに足る、實に之れ盲人の爲めの一大福音と言ふべし、盲人の父兄及び世の教育家慈善家等の諸君之を一讀せば必ず思半に過ぐるものあらん、

賣 捌 書 店

神戸市北長狹通
六丁目七十六番屋敷
神戸市元町通二丁目
三番 屋敷

福 音 館
福 音 館





295

11

盲人点字独習書

国立国会図書館

048460-000-2

295-11

盲人点字独習書 一名. 点字教授法

左近允孝之進/著

M38

BEH-0019

